

# ベタニヤホームだより



社会福祉法人 ベタニヤホーム  
〒130-0022 東京都墨田区江東橋5-4-1  
電話 03 (3631) 0 4 4 4  
FAX 03 (6659) 6 6 7 2  
発行責任者 網 春子

2023年春号 第145号

## 社会福祉法人ベタニヤホーム

### 第59回東京大空襲犠牲者追悼礼拝

「もしそれでもだめなら」

(ルカ13:6-9)

日本福音ルーテル東京教会

牧師 松本 義宣

(社会福祉法人ベタニヤホーム評議員)



評論家でノンフィクション作家の柳田邦男氏に、ご子息が脳死状態を経て亡くなるまでの記録を記した「犠牲（サクリファイス）」という本があります。脳死とされた息子さんと対座した11日間の思いを綴った大変印象的な内容で、その中でとりわけ私が教えられたのが「二人称の死」という概念でした。柳田さん自身の供述ですが、人の死ということを考える時、人間は自分の死という一人称か、あるいは生物学的、哲学的、宗教的とアプローチは様々でも、人の死を一般化した三人称で考えてきた。しかし、実は、愛する者の死、自分でも他人でもない、かけがえのない「あなた」という「二人称の死」ということから考える必要が

あると言われます。確かに私でも第三者の死でもなく、愛する相手の死、二人称の死は、また別の重さを持ちます。ある意味で、自分自身の死以上に二人称の死は辛く悲しい耐え難い喪失感がある。勿論、自分の死の受容が容易いというのではない。しかし、死と言うものの実感、痛みは、多様な側面を表してもいる、という視点です。

本日は、ベタニヤホームで59回続く「東京大空襲犠牲者追悼礼拝」にお招きを受けました。1945年3月10日、このベタニヤホームの諸施設がある所謂東京の下町一帯が、それまでの高高度からの軍事施設攻撃から方針転換をして、低空での無差別都市攻撃に転じた米軍の大空襲を受け、10万とも12万ともいわれる犠牲者が一晩で生じた、そのことを覚え、犠牲となった方々を追悼するものです。寡聞にして、このような礼拝が守られていたことを存じ上げませんでしたが、この地にある施設として、この悲劇を風化させずに記念追悼するという姿勢に敬意を払うと同時に、本日のお招きの重責に思いを馳せます。

さて、冒頭で「二人称の死」という考え方を紹介しました。現在、担当させて頂く「こひつじ保育園」のすぐ近くの横網町公園にある「東京都復興記念館」、関東大震災と東京大空襲戦災の展示館を何度か訪れたことがあります。本当にお膝元で起こった出来事であるのを痛感させられる思いがしますが、正直に言えば、東京大空襲で死者10万以上、その膨大な数や、また78年の年月の経過もあると、ともすれば、私たちは、戦争の悲惨や痛ましい犠牲とは思いますが、

どこか遠い「三人称の死」としか受け止められなくなる。もう、直接的な体験者も少なくなり、身近に接した関係者に触れる機会もあまりない。つまり、自分の「一人称の死」でないことは勿論、更に「二人称の死」の痛みの実感に触れることはできなくなっている。しかし、改めて、私たちは今日、そこには、何十万もの「一人称・二人称の死」があったということ、それが、一人一人の貴い「私の死」、さらに辛くかけがえないの「あなたの死」だったことを、なんとかして確認し、記憶し、心に刻むことを忘れてはならないのだと思います。



それを繰り返し反芻し、その体験がかけがえない「経験」として積み重ねられ、過去の反省が今と将来の課題の解決に、悔い改めとして生かされ用いられていかねばならない。そのことは百も承知だし、そうありたいと願う。しかし、時間の経過や距離の遠近を含め、人間はその積み重ねと継承に成功してきた訳ではない。悲惨は繰り返されるし、所詮、何事も「二人称の死」でしかなくなる。現在もウクライナでの戦争があるし、トルコ・シリア大地震が起った。また3・11は東日本大震災から12年を経ることになる。原子力に頼る危険性は身に染みただけだが、もうエネルギー確保から再稼働の動きがある。私たちは、遠さと時間の経過には無力です。当事者の痛みが、三人称である「第三者」にとっては、真に経験とするのは困難で、反省も悔い改めもやり遂げるのは難しいのが現実です。

本日読んだ聖書の箇所、一言で言えば、そんな私たち人間の、つまり悔い改めて、よい実を結びべき「いちじくの木」である私たちが、所有者である神様から、もはや切り倒されるしかないものにもかかわらず、しかし、なおしばらくの猶予が与えられている、というキリスト・イエス様のたとえです。所有者である主人に園丁は言います。「御主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。そうすれば、来年は実がなるかもしれません。」私たちが、繰り返し、この東京大空襲追悼の祈りをし、思い起こし心に刻む機会を持つのは、まさに「まわりを掘り、肥やしを与えられる」ことです。どのような実を結んでいくのか、猶予がいつまでか与えられているということ、どれだけ私たちが三人称で片付けるのではなく、あらゆることに対して、一人称で、また特に二人称で関わり続けることができるのか、そのことが、常に問われていることと覚えたいと願います。

本日の礼拝で最初に歌った賛美歌（『讃美歌21』90番「主よ、来たり、祝したまえ」）は、私の個人的な思い出



と関連する歌です。これは、東西ドイツが分断されていた、東西の「壁」が崩れ再統一されるなどは考えられなかった1988年に、平和と再統一を願って、ドイツ東西両教会で生み出され歌われた賛美歌です。実際には翌年に壁は崩壊しましたが、直前の東側で行われた有名なライブチャップでの「平和祈禱会」、これが壁の崩壊のきっかけでしたが、その際にも歌われました。そして、再統一後、1994年刊行のドイツ公用賛美歌に収録され、私事ですが、2003〜08年にドイツに滞在した時も、よく歌われていました。3節「地に平和、われら望まん、主の平和いまだならず」、恐らくこれが歌われた時、未だ統一は夢に見えても、ここに思いを込めて歌ったのでしよう。が、再統一がなくても、その思いを忘れずに歌い継ぐ、言い聞かせるのです。これからも何があるか、また何が起こっても「なみだもて種まくもの、時いたらば報いららん」、本日の聖書の言葉では、木の周りを掘り肥やしをやって実を待つ、神の猶予を「それでもだめなら」、もしそれでもだめならと諦めるのではなく、決まらず、このままにしてください、そうキリストが執り成し続けてくださっていることを信じ、様々な遠くのこと、また昔のことでも、三人称の出来事に見える関係を、少しでも一人称の、二人称のこととして受け止めていく試みを放棄することなく、「なみだもて種まく者」であることを忘れずに、悔い改めの実を結びべき猶予があることを心に刻むものでありたいと願います。アーメン。

## 法人創立100周年に向けて

### 〈第4回〉

母子生活支援施設ベタニヤホーム

副施設長 山内 恵美

「業を主に委ねよ。そうすれば、あなたが計らうことは堅く立つ。」（箴言16章3節・日本聖書協会訳）  
「人の心には多くの計らいがある。主の御旨のみが実現する。」（箴言19章21節）

ベタニヤホームは、設立の契機となった関東大震災の際に、米国ルーテル教会のほか、インド、中国のルーテル教会・宣教師会など日本以外の多くの団体個人からの支援金によって、またエーネ・パウラス在任中は、米国ルーテル教会、特に女性たちや子どもたちの献金によって、その活動が支えられてきた。

このように日本の中だけにとどまらないベタニヤホーム百年の歴史の中で、記憶にとどめておきたい事柄として、今回は2つの動きを紹介したい。

いずれも、戦後、事業の責任者は長睦する先生（1921年生〜2017年没、在任期間1961年〜2013年、以下敬称略）に移っている。

#### 1. 日本キリスト教児童福祉連盟事務局を受任…1974年〜2001年

日本キリスト教児童福祉連盟は、1974年に組織され、まもなく創立50周年を迎える。連盟の創立40周年誌によると、その時点で加盟施設数は96、北海道から沖縄までキリスト教を事業理念とする日本全国の児童福祉施設が連なっている。記念誌には、「米国のCCLU (China's Children's Fund, Inc. の子) Christian Children's Fund, Inc.) の援助を受けた児童福祉施設がCCCFキリスト教社会福祉の精神を受け継ぎ、日本の児童福祉の推進と近隣アジア諸国の児童福祉に寄与することを掲げ



て設立された」とある。前史として1938年クラーク博士(アメリカ)がCCFを立ちあげた当時の経緯も記録されている。

この歴史の中で、ベタニヤホームは連盟設立当初の1974年から長睦が事務局を担当し、特にベタニヤ母子寮(当時)が事務局機能を担い、2001年に現在のバット博士記念ホームに事務所を移転するまで、長睦に亘ってその任を果たした。記念誌に収められている長睦の回想によると、ベタニヤ母子寮とCCFとの出会いは、昭和36(1961)年、当時ベタニヤホームは、責任者エーネ・パウラスの定年・帰米により、熊本・慈愛園から長睦が施設責任者として着任したが、施設の老朽破損と処遇費の不足という大きな課題に直面していた。長睦はCCF東京事務所を訪ね、母子寮の必要性や窮状を訴えたところ、母子寮の30名の子どもに対して昭和37年9月には31,983円の支援金が送られ、それは母子処遇費の3倍に相当するものであった。「海をこえた遠くの国に住む多くのキリスト者とベタニヤ母子寮の30名の児童が主になって固いきずなで結ばれたのです。これは大きな恵みでした。(中略)そして、10年半余の歳月が流れ、母子の福祉を高めるために送られるものは800万円余にのぼり年収入平均の43パーセントに及んでいます。」と、感謝の言葉とともに記されている。ベタニヤホームの歴史の中で、このCCFとのつながりも覚えておきたい。

さて、この日本キリスト教児童福祉連盟は、1989年から家庭養育機能支援「子育てワークショップ」という研修会を継続して行っている。この研修会は、スキルトレーニングを目指し開始当初はまだ珍しいワークショップ形式で、子どもや家庭支援に携わる様々な施設の職員が、主題に関わる理論や体験学習を通して学びあい、専門職としての自分自身を振り返るリトリート的な特徴をもった研修会であるが、ベタニヤホームは連盟の事務局を担っていたこともあり、多くの職員を参加させてきた。この「子育てワークショップ」を始めるきっかけになったのが、以下に紹介するバーナード・パン・リ

ヤ財団からの助成であった。

## 2.6年間で「億円の助成を受けた」ベタニヤホーム とり親家庭援助事業」・1986年～1991年

オランダ・ハーグに本部を置くバーナード・パン・リヤ財団(Bernard van Leer Foundation)という団体がある。国際的に児童の健全育成、親教育、家族強化の実践活動を助成している財団で、トヨタ財団の設立にかかわった財団だ。長睦が東京都社会福祉協議会母子福祉部会の部会長をしている時に、数年かけて母子生活支援施設の利用者の質的变化を検討する調査研究をトヨタ財団の支援を受けて実施した。家族の変化、家族機能の変化が子どもの問題を考えるうえで重要であり、その質的变化に対応する児童福祉のあり方を調査研究していた時期で、トヨタ財団とバーナード・パン・リヤ財団とのつながりの中で、当時まだ「子育て支援」という言葉そのものも成熟されていない時に「児童家庭福祉」という考え方に立って、子どもが育つ家庭の機能の変化に着目して子育ての支援を組み立てていくパイロットプロジェクトとして、パン・リヤ財団は、ベタニヤホームの「母子寮で生活しているひとり親家庭への集中的なソーシャルサービスと教育的プログラムの実践」をテーマとした事業に年間1000万円程度を3年間援助することを決めた。その後助成額は、3年間で4150万円に膨らみ、しかも3年1期を2期、合計6年間で約1億円の潤沢な支援を受けることとなった。

このバーナード・パン・リヤ財団の援助によって始められた「ベタニヤホームひとり親家庭援助事業」については、評価や行政への提言も含め「ベタニヤホームの歴史」1983年以降の10年」という冊子に詳しくまとめられているので詳細は割愛するが、「バーナード・パン・リヤ財団日本プロジェクト委員会」の委員長福田垂穂・東洋英和女子短期大学学長・元明治学院大学教授(当時)は、評価の中で「・・・」母子寮が、じつは家庭支援情報と実践の発信源または福祉コミュニティに向かう変化を生み出すチェンジ・エージェント、

さらにその成果の普及源たり得る」「地域社会に対しても積極的家庭支援のセンターたり得る」と言及しており、今に照らし合わせて30年前のこの事業がいかに先駆的であったか、その意義をあらためて胸に刻みたい。

ベタニヤホーム創立80周年記念誌に、当時の丸山正昭理事長が挨拶の中で以下の言葉を残している。

「今は変化の時代といわれますが、時代は常に変化するもので、歴史は決して繰り返すものではありません。私も人生の土台として繰り返すものは何でしょうか？建物はゆるぎない土台の上に建てるように福祉もまた、キリストを土台として構築することが重要です。いかに業績を上げるかという前に、何が神に喜ばれるものであるかを問いたいと思います。愛による働きが神に喜ばれる業であると思います。」

災害、戦禍、そしてその時々で、重荷を負った母と子や子育ての支援を必要とする家族を支え続けてきたベタニヤホームの歩みは、そこに確かに神のみ旨が働かれてきたことをあらためて確信するものである。

## 給食室だより ～菊川保育園～

これは何の写真でしょう？



コロナ禍で様々なイベントが無くなってしまっている中、保育園で子どもたちにもお祭りの気分を味わってほしいと作った『いちごあめ』です。

甘酸っぱいいちごに熱々の飴をかけて、

乾かせば完成です。

たくさんのいちごあめが並んでいる様子を、「可愛いね!」と言って、みんなとても美味しそうに食べてくれました。

これからも子どもたちの笑顔が溢れる給食を、給食職員でつくっていききたいと思います。

## 母子生活支援施設ベタニヤホーム

### ●成長お祝い会

3月4日、子どもたちの進学進級をお祝いするため「成長お祝い会」を行いました。

今回は、準備段階からお母さんたちも制作に加わってくださった華やかな装飾で、子どもたちをお祝いすることができました。当日は、お母さんから子どもへのメッセージ動画を含めた1年を振り返るスライドショーを鑑賞しました。一緒にいることで子どもたちの成長に気づかずに日々を過ごしがちですが、改めてスライドショーを見ることで、子どもたちの成長に驚き、涙するお母さんもしました。

ベタニヤホームでは、職員もお母さんと一緒に子どもたちの成長を支えています。お母さんもお母さんという視点を持ちながら、親子それぞれの成長をサポートしていきます。



## 菊川保育園

### ●慣れ保育

「コロナ禍だからではなく、ここ数年やって良かったと思うことはどんなところですか」と外部の方から問われる場面が時折あります。菊川保育園では、入園後の慣れ保育がそのひとつです。「密を避ける為ではなく、一人ひとりとゆっくりと子どもたちの育ちを共有したい」という思いから、乳児の慣れ保育の持ち方を変えてきました。

それまで、同じ時間で受入れ、降園をすることが多く、時間帯が重なる慌ただしさがありました。また、0歳児は特に午前寝のリズムになると本来の姿で過ごしにくい面もあります。そこで、面接時に保護者と相談し、朝は8時半から、夕方は15時から2名ずつ、時間をずらしての母子同時登園としました。1時間保育園で過ごしながら、



「おかえりなさい」

ゆっくりと成長の変化を聞き取ります。今年はお父さんの参加が多く、「昨日は母親で、今日は交代で僕が来ました」とお父さん。会話の中に、日常の様子が伺えます。迎え時に抱っこされ、思わず笑顔になる親子に私達も心が和みます。

初めての保育園、子どもも大人も安心して過ごせるよう、保育士も考えながらの日々です。心地良い場になりますように。



### 富士見保育園

#### ●3月の製作●

つぼみ組では3月に手形スタンプの製作をしました。4月に手形スタンプの製作をした時は、インクが手につく感触を嫌がったり、戸惑ったりする姿も見られましたが、それから月ごとに製作を行い、いろいろな素材を使う経験をしたことで今回の製作では「私もやりたい!」と積極的に、わくわくした気持ちで手形スタンプを楽しむことができました。そして、一人ひとりの手形は桜の木となり、保育室に飾りました。「私のおてはどれだろう」「綺麗だね〜!」と子どもたちと一緒に眺めながら毎日お花見を楽しんでいます。



「手形べったんしたよ!」



「みんなの手形で作った桜の木」

### こひつじ保育園

#### ●ぶどうさんありがとう●

いつも同じフロアーで過ごしている3・4・5歳児で卒園を迎える5歳児のありがとうの会を計画し、各クラス子どもたちとどのようにして感謝の気持ちを伝えようか話し合いました。そこで3歳児、4歳児はダンスやメッセージを伝え、5歳児からは、おかえしに歌のプレゼントを贈ることになりました。最後に4歳児が5歳児のぶどうさんのために、内緒で大切に育てたチューリップの苗をメッセージと共にプレゼントしました。毎日かかさず水をあげていたこともあり、つぼみのチューリップを見ながらなごり惜しそうなお表情をして渡す姿もまた、愛らしく感じました。緊張した様子で「すてきなぶどうさんになります」「優しくしてくれてありがとう」「ずっと友だちでいよう」等自分なりに考えた言葉で感謝の気持ちを伝えていました。その言葉を受けてぶどう組の子どもたちも、「スポーツデーやクリスマス頑張ってたね」「かっこいいぶどうさんになってね」と伝えていました。その言葉のやりとりをしている子どもたちの成長した姿にも感動しました。

新しい生活へと進んでいく子どもたち、進級して頼もしくなっていく子どもたち、それぞれの姿をこれからも、応援していきたいと思えます。



# 法人本部からの報告

## ◇理事会開催報告

### 〈第6回〉

令和4年度第6回理事会を画面にて開催し、左記の議案について令和5年3月3日付で決議を受け承認されました。

議案第26号 令和4年度母子生活支援施設ベタニヤホーム拠点区分資金収支補正予算(補正第2号)

算(補正第2号)

議案第27号 太陽熱利用温水設備設置等工事の請負契約の締結について

議案第28号 令和4年度第4回評議員会の招集について

### 〈第7回〉

令和5年3月16日に、令和4年度第7回理事会をリモートで開催し、左記の議案すべてについて決議を受け承認されました。

議案第29号 令和4年度法人本部拠点区分資金収支補正予算(補正第2号)

議案第30号 令和4年度菊川保育園拠点区分資金収支補正予算(補正第2号)

議案第31号 令和4年度富士見保育園拠点区分資金収支補正予算(補正第1号)

議案第32号 令和4年度こひつじ保育園拠点区分資金収支補正予算(補正第1号)

議案第33号 社会福祉法人ベタニヤホーム就業規程の一部改正について

議案第34号 社会福祉法人ベタニヤホーム有期契約職員就業規程の一部改正について

議案第35号 社会福祉法人ベタニヤホーム賃金規程の一部改正について

議案第36号 令和5年度予算に係る積立金の取り崩しの承認について

議案第37号 令和5年度事業計画及び資金収支予算の承認について

議案第38号 創立100周年デジタル記念誌等制作業務の委託契約の締結について

議案第39号 令和4年度第5回評議員会の招集について

## ◇評議員会開催報告

### 〈第4回〉

令和4年度第4回評議員会を画面にて開催し、左記の議案について令和5年3月13日付で決議を受け承認されました。

議案第10号 令和4年度母子生活支援施設ベタニヤホーム拠点区分資金収支補正予算(補正第2号)

算(補正第2号)

### 〈第5回〉

令和5年3月24日に、令和4年度第5回評議員会をリモートで開催し、左記の議案すべてについて決議を受け承認されました。

議案第11号 令和4年度法人本部拠点区分資金収支補正予算(補正第2号)

議案第12号 令和4年度菊川保育園拠点区分資金収支補正予算(補正第2号)

議案第13号 令和4年度富士見保育園拠点区分資金収支補正予算(補正第2号)

議案第14号 令和4年度こひつじ保育園拠点区分資金収支補正予算(補正第2号)

議案第15号 令和5年度事業計画及び資金収支予算の承認について

## ご協力ありがとうございました

〈令和5年1月〜令和5年3月まで〉(敬称略)

### ●ご寄附

〈母子生活支援施設〉救世軍本営社会福祉部(ハム・クッキー)、日東富士製粉株式会社(クリスマスケーキ)、社会福祉法人おあしす福祉会(木製玩具)、日本福音ルーテル聖パウロ教会(お菓子)、日産化学株式会社(掃除機・工具・クレーン焼き台・プランターの道具・DVD)、特定非営利活動法人ソシオキユアアンドケアサポート(化粧品)、花王株式会社(消費スプレー・ハンドソープ・洗濯洗剤)、カープス西国(食料品)、株式会社包む(レターセット・紙袋・シール)、上村高志(造花)

〈菊川保育園〉菊川印刷(紙)、駒宮のり子(刺し子ペストリー)、佐々木順子(雛飾り製作)、在園児保護者(エプロン・ビニール手袋、在園児保護者(玩具))

〈富士見保育園〉在園児保護者(オムツ)

〈法人本部〉日本福音ルーテル田園調布教会附属田園調布ルーテル幼稚園(金1万3千円)

### ●地域公益活動(パントリー) 協力団体・個人

モリモト・トラスト株式会社(米)、コストコホールセールジャパン千葉ニュータウン倉庫店(食品)、フードバンク江東(食品)、公益財団法人キュービーみらいたまご財団(ドレッシング)、株式会社プログレッシブ(野菜)、すみだ青空市ヤッチャバ(米・食品)、キュービー株式会社(惣菜サラダ)、大末建設株式会社(防災食)、CJ FOODS JAPAN株式会社(飲料)、王将フードサービス株式会社(弁当)、すみだ新製品開発プロジェクト(本)、墨田区立フレンドリープラザ立川児童館(食品)、認定特定非営利活動法人セカンドハーベスト・ジャパン(食品)、一般社団法人全国食支援活動協力会(食支援)

## 保健室だより ~菊川保育園~

4月に入り、これまで0歳児クラス(つぼみ組)と一緒に過ごした子どもたちが進級し、1歳児クラス(うめ組)になりました。つぼみ組を担当していた先生たちと、子どもたちの成長を感じるとともに、少し寂しい気持ちにもなりました。春は出会いと別れの季節ですが、進級していく子どもたちを見守りながら、新しく入園した子どもたちとも楽しい時間を過ごしていきたいです。



### 編集後記

新学期が始まりました。お母さんやお子さんも新しい生活がスタートし、入園入学と慌ただしい時期を送っておられるかと思えます。施設でも、子どもたちから「行ってきますー」と聞こえてくる元気な声に、職員もエネルギーをもらっています。また、三年間もの長きに渡り続けてきた感染対策も世の中では緩和されつつあります。皆様がのびのびと生活できることを願っています。